

ごみを減らそう!!



飲んだ後、瓶を減らさずそのまま

4人分をばせて、約12本

使ったペットボトルは本?

ビンボー

ペットボトル

お水も、お茶も、おジュースも

お水も、お茶も、おジュースも

●写真提供/海ニッポン
●イラスト提供/京都府生活学校連絡協議会
●取材協力/ワンセキ・リサイクル事業部、PETボトル協議会

gomi情報最前線

写真を見ていると、むしろまなキッズたちの活動が即ちです。この4月にも行われる「資源回収リサイクル法」の影響もあって、施設に入る再生資源。これは、この春通信販売業界の大手街ニッセンがあるサイバー・共同企業と「リサイクル」させた資源のシリアルウェアのキッズ版である。日本ではPETボトルの需要がぐんぐん増え、年間生産量は13000トン（PETボトル協議会）である。1995年の生産量にもあやふやである。一方リサイクルも進み、衣類の他、カーペット、カーペット、台所用水切り袋、機器用フィルターなどの資源として活用されている。既出王様と「資源回収」行政も本腰を入れはじめ、京都市でも10月からPETボトルの回収が実施されるが、市民の意識や行動はどうか。京都市民1000人を対象とした京都府生活学校連絡協議会のアンケートによると、PETボトルを一般ごみに入れていた人が655人、再生利用を知っていた人は658人、回収に協力したい人が940人であった。いくらか回収がシステム化したとしても、ごみ処理の決定的な解決策とはならない。リサイクルはエネルギーを消費しコストがかかることを忘れてはならない。まずは発生抑制を、それでごみ処理の悪循環を断つべきだ。

除出済みのPETボトルの再生資源に付く「リサイクル」マーク



PETボトルに行っているリサイクルマークのマーク



京都市ごみ減量推進会議に なにができるのか。

昨年11月発足以来、「京都市ごみ減量推進会議」はよちよち歩きながら、様々な動きを展開してきた。市民・事業者・行政の三者のパートナーシップによる自主的な取組という今までにない活動形態が基本だけに、今後への期待が大いに膨らむ滑り出しとなった。次への芽が吹き出してきた4か月を振り返りつ、会議の発足の準備段階から関わり、土台づくりに労のあった御三方が、今後の活動の方向性や期待などを語り合った。

●出席者 高月 純氏 校本育生氏 長谷川和子氏

立場を越えて、ごみ減量の実現へ。この取組は他の都市にはない。

高月●京都市ごみ減量推進会議は趣向的的で、ユニークな組織だと思っんですが、意義とか評価などについて話しましょうか。

校本●市民・事業者・行政がごみ減量をテーマに同じ場に入った。これはものすごい前進だと思っただけです。今まで別々に動いていて、それぞれにごみ減量に取り組んでいてもお互いを知らないがゆえに、遠い存在だったかも知れない。しかし、「地域ごみ減量推進会議」が設立され、一緒に取り組んでみれば、「な〜んだ同じようにごみ問題に取り組む



んでいたのか」と共感が生まれてきます。それに活動に広がりもでてきます。

長谷川●それだけごみ問題が深刻化し解決への具体的な取組が急がれていることの証明なのだと思いますが、自立する団体として市民・事業者・行政が同じテーブルを囲み、ごみ減量に取り組もうというところから、この会議が発足したことを評価したいですね。組織としての母体はありながら平らな関係の中で、人間のネットワークをつくっていくことがこの会議の特徴だと理解しています。

高月●その通りです。この会議自体がテストケースのようなものですから。今までにない組織として育てていき、関わった人々の能力を生かしながらひとつの運動体形成していく過程が重要です。学びつつ、運動の手法を体験し、人と人のネットワークが広がるのですから。

校本●まさに発展形の組織ですね。とくに、それぞれ地域の自主的な活動を重視し、「京都市ごみ減量推進会議」がサポートするという「地域ごみ減量推進会議」の存在がユニークだと他都市にも自慢しまわっているんです。やる所をどんどん広げようというのは他都市に例がありません。これまで行政主導の全庁的な活動が当たり前でしたら、ごみ減量は、行政がやるべきものという思いがもたらがえさるをえなくなくなっているでしょう。

高月●ごみ減量運動への地域の芽、一人ひとりの芽を育てるのと同時に、いろんなアイデアが市民からでてくるようなことをやって

いくべきでしょう。そして、市民全体の運動へと相付いていってほしいですね。

とここで、期待以上に事業者の参画が多かったのは大きな収穫ですね。ごみを減らすというのが社会全体の動きになっている。時代の趨勢が促したような気がします。

長谷川●企業の取組はかなりの積極的なようですね。逆に、企業が活動をオプトアウトにしてそこから市民が行政が活動ということも大切ですね。この会議を通し企業市民として、地域活動に参加するチャンスといえますね。

高月●京都市のごみの半分以上が、事業者のごみなのでさらに積極的な取組に期待したい。

長谷川●学識経験者が多数参加されたということもこの会議の特徴ですね。

校本●高月先生をはじめ、ごみに関する学識経験者がこれだけ揃っていることは、この会議の誇りです。東京の環境団体も「京都はごみ関係の先生方が多くていいね」とうらやましがると言っています。

「ごみてっなんなの？」
まっさらな目標で地域の隅々から声を拾えたら…。

高月●発足から4か月、この間にいろいろの芽が出てきました。この会議の活動はいろんなやり方があると思いますが、9年度への動きも踏まえ、芽生えた動きがどういうふうに戻ってほしいのかそのことを話し合っただけです。

必要がありますね。

高月●知らせても同時に情報として発信していくことが大切です。そういう点から、今日の座談会場の場を持つきっかけとなった情報誌の発行は、鍵を握っているような気がします。長谷川●メディアが多岐に渡っている現代、メディアを現代的に使いながら京都市ごみ減量推進委員の活動を評価し、しっかりとPRすることが活動への理解を広げ、浸透させるためのポイントになるのではないのでしょうか。これまでの運動はとくく運動が主でPRが不足していた嫌いがあります。私がメディアの仕事をしているからではないのですが、PRについてフットスタイルや価値観の改革が必要運動には、相好のメッセージ役を果たしてくれます。メディアを通してごみ減量に関する情報や生活提案をキャッチした後、なにかおもしろい点から、私も関わりしてみようと思われたいの伝達パワーを持って、この会議から発信できたいですね。

高月●それは、いいアイデアです。しかし残念ながらごみ減量の評価はかなりむずかしいです。形に現れないですから、ごみを減らしている都市はあるにはあるのですが、ごみ回収を有料化したら減ったとかそういう事例はありません。

長谷川●京都の場合、観光ごみのことも考え

なくてはならないでしょうね。年間4000万人もの観光客が京都を訪れるわけですから。

高月●おっしゃるとおり、京都は街の散見ごみに対しても義務というが、責任がつかいてきます。ごみ減量も家庭ごみ、事業者のごみだけでなくもうひとつ街全体の目をもて実行していかなくてはなりませんね。

高月●ごみ減量は文化のパロメーターでもあるのです。ごみが少ないほど、その都市の文化度が高いことの証明なのです。ごみ減量に関しては京都の歴史の遺産である町衆の心算、明治維新の改革への意気込みを思い起こして前向きに取り組み、文化度の高さを示せた素晴らしい成果へとつながっていくことでしょう。他の都市や、いろんな人から京都は期待されていますよ。

ごみ減量活動をCOOP3と呼びさせ、21世紀に希望をつなぎたい。

高月●さて、21世紀に向けて、ぜひこれだけはやらねばと思われたいことがあります。今年12月には、京都でCOOP3が開催されます。地球温暖化防止対策の基本といえるごみ減量はCOOP3とつながっていくことも可能ですね。

高月●12月にCOOP3を控え、地球の未来が今までは以上に多面から語られる中でしょ。僕は、今年は環境問題、ごみ問題への取組を飛躍させる大きなチャンスだと考えているんです。いろいろな仕掛け、機会や場を

増やすことで人も社会の流れも変わっていくと思う。ひとりがやってもいいやないというあきらめから、ひとりでできるやないかという意気込みの改革が起せると思います。そういう時の流れからしても、ごみ問題に対する教育の機会がもっとあつていい。例えば、ひとり暮らしをはじめ大学生を対象にしたごみ教育とかできないものでしょうか。

高月●その大切さを理解している大学では、すでに入学時のオリエンティングの一環としてごみへの知識普及に努めています。実は、私は3年前からある大学に招かれ、新入生を対象とした講演を行いました。学生の新しいイメージが始まり、気持ちもフレッシュな間にごみの話をすると、いいことだと喜んで話しています。見聞してみればごみ問題に関心を持ってもらうためのきっかけづくりは、まだまだあるはず。

高月●保育園、幼稚園、小学校、中学校用のごみの学習プログラムを開発すれば機会を増やすことができますね。

高月●事業者の新人社員を対象としたごみ問題のオリエンティングも考えられます。『ごみ問題』の他、『我が社の製品と環境との関係』などをテーマにして、新入社員研修に組み込むことで、ごみ問題はもう地球環境への意識が芽生えてくるはず。

高月●新入社員へのごみ教育・環境教育の推進時に京都

市ごみ減量推進会議がヘルプできるような体制になればいいですね。市民・事業者・行政の三者のパートナーシップをもつてすれば、いろんなことができそうです。夢がふくらむなあ。

長谷川●この京都市ごみ減量推進会議には、ぜひ若い皆さん方に参画していただきたいですね。子どもたちが地球を残そうと働きだされ、共感を得られたいと思います。

高月●ごみ減量は、さまざまなお金がりを秘めています。ごみ減量に取り組んでみれば、現代社会や富裕、経済、地球環境保全いろいろなどところへ広がっていきます。私自身も皆さんもごみ問題に学ぶところがいっぱいあるんじゃないでしょうか。21世紀へと希望をつないでいくためにも『京都市ごみ減量推進会議』そして「地域ごみ減量推進会議」を京都市民全体の運動として掲げさせ、ごみ減量を実現しなくてはなりません。



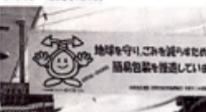
1 木本育生 (すざもといくお)
(環境市民理事・京都市ごみ減量推進会議地域活動実行委員会委員長)
1977年～1986年京都市役所勤務。主に環境管理計画、環境アセスメント制度の策定に携わる。1993年環境市民の発足に加わる。同時に、京東フォーラム—地球温暖化を防ぐ市民会議—事務局次長、常任委員なども務める。

百貨店、スーパーなど 流通業界と協力して 簡易包装推進キャンペーンを実施

去る2月1日(土)・28日(金)、一カ月間にわたり、買い物袋の持参をはじめ、簡易包装商品の選択、過剰包装の見直しなどを呼び掛ける、簡易包装推進キャンペーンを実施した。京都百貨店協会、京都生協、京都商店連盟、日本チエーンストア協会関西支部と京都市「ごみ減量推進会議」が力を合わせて初めて取り組んだ全市のキャンペーンの第一弾で、豊原岡のほりの郷出、店頭での啓発ポスターの掲示や店内放送での呼び掛け、新聞、折り込みチラシでの呼び掛けなど複合的な展開でPR効果を狙った。ポスターやのほりなどにはすべて「地球を守り、ごみを減らすために、簡易包装を推進しています。」の統一キャッチフレーズとめぐるくんのロゴマークを使用。京都市民に買い物時点での包装への意識啓発とごみ減量への行動を促進するよう訴えた。

京都生協では、啓発のほりを市内全店20店舗に出した。買い物袋持参率77%の生協では、さらに徹底するため店内POP、チラシでの呼び掛けも行った。

四葉製菓会商店街(四葉烏丸-四葉大橋西詰側)、河原町商店街(河原町通三条-四葉橋)では、アーケード下吊り看板を下げ、PR(2月1日-14日)、同時にステッカーも掲示した。



マスメディアとの提携で展開 買い物袋フレゼント キャンペーン

だれでもすくむことができるごみ減量といえは、買い物袋の持参。「京都市ごみ減量推進会議」においても、取組の軸になるものである。8年度の事業として買い物袋1000個を用意。新聞・テレビ・ラジオ(京都新聞、KBS京都、エフエム京都、洛南ケーブルビジョン、京都ケーブルコム、ユニケーションズ、エフエム伏見)などのマスメディアとタイアップするということから、買い物袋を提供し、京都市民に向けてフレゼントキャンペーンを実施した。例えば、



まちが13センチもあり持ち手も長く、収容量たっぷり
の買い物袋。デザインは1カメと地球1海4
森3鳥の5種類(サイズタテ50cm×ヨコ32.5
cm×マチ13cm・柄100%) 写真は地球と森

クイズでごみ問題を理解する おもしろくって楽しい ワークシヨップを開催

しゃかりきになって「ごみ!ごみ!」と、声を上げてごみ減量はかなわない。まずは、知識を身に付けよう、そして楽しみながら覚えよう、地域で活動するリーダーを養成するための参加者学習会を3月に第1部と第2部、計6回開いた。1回2時間30分のプログラムは、すべてがごみに関するクイズで構成された。第1部は、家庭ごみの種類、処理の費用をはじめ、ホテルや旅館の残飯についてなど、ごみ問題全般。第2部は、缶飲料やプラスチックごみなど容器包装ごみに焦点を当てた内容で、問題を出す講師、答える参加者が一掃になって、笑ったり驚いたりできつるざながらの学習となった。「こんな学習なら、もっと友だちを誘ってこればよかった」とは、参加者の井、第1部、第2部各3回のワークシヨップへの参加者は、85名にのぼったが、それぞれにごみへの知識や学習のノウハウを持ち帰る地域活動に生かしてほしいものである。

京都新聞では、1月26日(日)付「STEP・UP」にて、ビニール袋の使い捨てを減らすよう市民会議が購入した布製の袋を紹介、フレゼントを告知し、ハガキでの応募を募り、抽選で50人の京都市民に進呈した。
ドイツでは、ショッピング時に買い物袋持参が常識。当然のようにレジ袋をもらわない日本人はドイツ人に見習わなくてはならない。買い物袋持参運動を京都市民に浸透させるのは「京都市ごみ減量推進会議」の役割の一つといえよう。

- 第1部 ごみ問題ってなんだろう?
- 第2部 容器・包装を考えよう
- 講師 杉本育生氏(すぎもといくお・環境市民)
- 堀 孝弘氏(ほりたかひろ・環境市民)



参加者に問いかける堀 孝弘講師

ラジオがごみ問題を考える場に エコモニターや 買い物袋プレゼンとも

去る2月3日(27日)、KBS京都ラジオ「京都大好きラジオ」では、月間テーマをごみ問題に据え、全16回にわたる番組としてごみ減量に取り組んだ。第1回のごみ問題とは何かについて語った酒井伸一氏(京都大学環境保全センター助教)を筆頭に、京都市ごみ減量推進会議の会員等14名がゲスト出演、それぞれ立場からごみ問題について話した。

今回のキャンペーンは、一方通行ではなく、リスナーとの双方向が特徴。2月10日(月)の放送(校本育生氏出演)では、エコモニターをスタートさせ、モニターによる4週間のごみ(①量、②缶、③びんの数、④ティッシュペーパーの量)を調査、そのデータに基づき、校本さんが具体的なごみの減らし方を助言するという試みも実施された。また、リスナーからごみ減らしのアイデアを募り、番組の中で発表し、毎回1名に買い物袋をプレゼントするなど2Wayならではの企画も盛り込まれた。放送中、リスナーから「ごみ減量宣言」が多数寄せられた。(京都大好きラジオでの、ご意見等は一部、12ページに要約しています)



大学のごみを減らすにはどうすればいいか キャンパス・ゴミフォーラム 開催



今まで職員、教員、学生、大学生協などが個別に取り組んできた大学内のごみ。大学を構成する人々がお互いの立場を理解し、ともに取り組み、役割分担していくことがごみ減量には欠かせない。

3月15日・16日の2日間にわたり開かれた「キャンパス・ゴミフォーラム」1日目は、ごみの現状を把握し大学としてまた学生として何かできるかを4つの分科会で語り合った。2日目は、京都市ごみ減量推進会議会長高月祐氏(京都大学環境保全センター助教)をコーディネーターに迎え、4名のパネラーを交えたパネルディスカッションが開かれた。その後、行われた分科会では、ごみ減量への取組は、論理だけでは進まない、システムづくりが解決の鍵を握るなど、熱っぽい議論が交わされた。また、大学でのごみ減量の成功事例として、使い捨ての発泡スチロール製のトレイを止め、洗える皿を使用した京大の「ごみマイルエト」学園祭が成果として述べられた。

京の始末自慢シリーズ① ぜいたく煮

けちとも通ず、節約とも通ず、「始末」という生活様式が、昔前まで京に根付いていた。出し惜しみして他人からひんしゅくを買ったりするごとは決してない。せむつめてせむつめて蓄えるでもない。要るものだけを最小限使い、無駄を省く。一度使ったものも捨せずに、「と」とん使いきる。「始末」とは、関係であり、再利用や再びより物を生かそうさせる知恵ではなからうか。

京の人々の「始末」の中ぜいたく煮という料理法があった。ぜいたくと侮はれてはいるが、なんのこにはない食べ残しの汁を煮詰めて利用した一種のおぼんざいである。ひからびしなげてしまった沢庵漬を柔らかくするまで炊いて、おしょうゆで味を付け一品とした。好みでゆりおやだし昆布、土生巻などを加えたちうである。「えお茶漬の友やうたわ」という人もあれば、立派なおぼんざい」という人もあり京の人にとって馴染みの深い料理だったようである。それにしても、食べ残しを一品に生かそうさせて、ぜいたく煮とは、京の人、古くから物を捨てずに知恵を働かせ、手間隙かけて、再生させることを密かに愉しみ、心のせいたくとしていたにちがいない。

京の食べ残しごみは、5600ト(平成7年度家庭ごみ365,000トのうち推定)台所から出る生ごみの約4割が食べのこし(平成4年度家庭ごみ細組成分調査)といわれる現代、ぜいたく煮に見られる京の始末心をお手本にすると、かなりのごみ減量できるのではなからうか。

京都市からの お知らせ

電話でフリーマーケット

リサイクルの新システムスタート

家庭での不用品を譲りたい人と、

譲ってほしい人とが電話回線を利用して自動的に提供するシステムがスタートした。電話を使って、日曜、祝日いつでも24時間情報交換。電話

でもOK。「ベッドを譲りたい人」とももちろん、FAX(10月から開始)でもOK。「ベッドを譲りたい人」ともなかったけれど、だれがいつ運び込むの?」など品物の搬出、搬入も紙料金で利用できるシステムもありとても便利。高麗屋京都店7階生皿字書情報プラザに設置しているタッチパネルでは、画面を見ながら品物の登録ができ、ほしいものも見つけ

られるかも。市民の生活を配慮した利用しやすいリサイクルシステムにこみ減量への期待が寄せられている。

京都市不用品リサイクル
情報案内システム

☎241-0530



画面に触れると声の流れ、親切にガイドしてくれる。

「容器包装リサイクル法」

本年4月から施行

一般廃棄物の中で、官横比で60%

重量比で25%を占める缶・びん・ペットボトルなどの容器包装ごみのリサイクルを進める「容器包装リサイクル法」が本年4月から施行される。

4月からの対象品目は、缶・アルミ・スチール、びん(白・茶・その他)、ペットボトル、紙パックの7品目で、段ボール、その他の紙、その他プラスチックの3品目は、平成12年から対象。同法では、市町村は分別収集(選別・圧縮・梱包も含む)を行い、消費者は分別収集に協力し、事業者は、市町村が分別収集したものをリサイクルするという仕組みで、それぞれ役割分担されている。

京都市では、リサイクル型社会の構築を目指し、容器包装の資源ごみ収集に取り組んでいくため、昨秋、「容器包装リサイクル法」に基づく平成9年度から13年度までの5か年の分別収集計画(各年度の排出量見込み、収集対象物の種類、分別区分、収集方法資源化量見込みなどの計画)を策定するとともに、同法の施行に先駆けて、昨年10月からは、こ

れまでの空き缶に加え、空きびんの収集(全市域を対象に缶・びん混合袋出方式にポリ2週間に1回、収集定点に排出)を実施している。収集量は、12月までの3カ月間で約2,800トンで、排出見込み量に対する割合の約80%にあたる。

また、本年10月からは、新たに、ペットボトル及び紙パックについても、全市域で収集を実施し、資源ごみ収集の拡大を図っていくことが決められている。さらに、段ボールなどの3品目については、平成12年からの施行を視野に、収集方法など研究、検討を進めていく予定である。



「分ける」ではじまる容器リサイクル



REPORT

石川 英輔 氏
(いしかわ えいすけ)

昭和8年、京都生まれ。科学技術的立場から、江戸時代のエネルギー資源のサイクル状況などに研究を深めている。現在、NHK教育テレビ「やってみよう何でも実験」の司会者として出演中。著書に「大江戸えんぷる第一巻」(大江戸リサイクル事情)他多数。



京都市ごみ減量推進会議設立記念講演会 「江戸時代に学ぼう」

江戸社会のリサイクル構造

去る2月20日、ウィングス京都にて京都市ごみ減量推進会議の設立記念講演

会が開かれた。高月 絨会長のあいさつに続き、江戸研究の第一人者である石川英輔氏が登壇。234名の参加者は約90分間、循環型構造を持つ江戸文化に触れた。

江戸の循環構造に気づいた時、目からウロコが落ちた。

現代は大きな欠点を内在させています。石炭・石油・天然ガスといった化石燃料を使うために、持続可能(SUSTAINABLE)・システマティック(システムティック)でありませぬ。化石燃料は一方通行で、リサイクルが不可能です。空気を汚し、地球上のバランスを破壊しながら減り続けていくだけです。しかし江戸時代は、普通に生活しているだけでほとんどのもが、1年たてば元に戻っていき、社会全体が自然にリサイクルする構造になっていたのです。

光熱エネルギーや紙も
自然な循環システムでまわっていた。

まず、基本的な資源である光熱エネルギーですが、江戸時代の照明器具は植物から採れる菜種油と綿菜油を燃やすす灯が普通でした。これは使用後、二酸化炭素と水とに分解され次の年に菜の花を咲かせ、実を採らせる原料になります。では、薪を使っていった熱エネルギーはどうか。日本は世界有数の森林大国で、現在でも一人あたり50トンの木があり、



その木が1年で5%成長すれば、25トンの増えることとなります。この25トンの木を燃やすと、現在の熱エネルギーの4分の1に相当する1,000万キロカロリーの熱を作り出します。江戸時代は木が成長する利息分の数百分の一でまかなえたのです。

江戸時代の日本は、紙の使用大国でしたが、これも非常に成長の早い樹という植物のその年に成長した若枝だけを用いていたので、いくら木を伐ってもまた1年経てば元に戻った強度があり丈夫です。しかも、速き直して使っていました。素材は、履き物、襦袢などに用いられた麻織、様々なものに使われた竹や包み紙としての竹の皮…。これらは、人々が意識してリサイクルするのではなく、放っておくだけで自然に循環したもののなのです。

下肥や灰、紙屑、金属、

傘の骨までもリサイクルしていた。

人間がもっと深く関わり積極的にリサイクルしたものがあります。代表的なのは、下肥です。「日本文化の恥」とやめてしまいまし

たが、江戸期はいい肥料として活用されていました。これは京都で始まったことですが、下肥を集めて、田畑に戻すという循環型の発想は、ヨーロッパにはなかったことなのです。ロンドンではテムズ川に、パリはセーヌ河に汚物を放流していた。ところが江戸では、農家の人が先を争って下肥を買ったのです。灰もそのひとつです。風呂や炊事の後の灰を糞染、絹の精練、酒造、肥料に使ったのです。灰問屋は当時としては非常に大きな商売だったのです。

その他にも、紙屑賣い、金属回収、古骨賣い、銅鑼の流れ賣いなど、さまざまなリサイクル業が成り立っていました。

先相たちの文化が

ごみ減量のお手本なのです。

果たしてどういふふうか江戸時代の考え方を利用すればいいのかわかりませんが、私の話を聞いたからといってあふれるごみは減らないうし、ただ、つい最近まで江戸時代と同じことが行われていたこと、とくに、京都市がリサイクルの発祥地なのだから、もっともっと私たちの先相や伝統に自信を持っていいと思います。

ドイツやデンマークではという声も聞きますが、私たちがのお手本は遠い外国ではなく、日本文化であり、江戸文化であることをもう一度認識してほしいと思います。

※この講演は、当日の石川先生の講演を要約したものです。

会員探訪



オムロン環境標章に基づき分別ごみ収集を実施

OMRON

「京都市ごみ減量推進会議」が発足して4か月、現在、120に達している会員それぞれにごみ減量への取組があり、工夫と知恵があるに違いは、活動状況をお互いに公開し合うことでごみ減量への取組がさらに知恵あるものとなればと、訪ねていきました。

オムロン株式会社

Q 貴社では、環境問題やごみ問題に積極的に取り組んでおられると聞きましたが…
A 当社では、廃棄物の減量化や資材、紙資源の削減、環境保全に貢献できる商品の提供を目指し、1994年4月「オムロン環境憲章」を制定しました。その背景には、大量生産、大量消費、大量廃棄を見直し、文化を転換することが必要であり、「ごみ」を「資源」として捉え直すことが時代の要請だと判断したからです。その憲章に基づき、すでに具体的な取組を進めています。

オムロン環境憲章

私たちは環境と人との調和を目指し、
 優しい技術と公器性の高い企業活動
 を通して
 よりよい社会の実現に貢献します

Q 社会的に問題となっている産業廃棄物に対し、どんな減量策を進めていますか？
A オムロンは「廃棄物≠地球汚染+損失」とのスタンスに立ち、廃棄物の減量化を進めています。部門毎、事業所毎ではなくシステム的な取組（環境マネジメントシステムの構築）をベースに、環境規格（ISO14001など）の取組を目指しています。

Q 貴社ではすでに、ISO14001の認証を取得した事業所等があるそうですね。
A 昨年11月にオムロン総務事業所（京都府綾部市）、12月にはオムロン一宮（愛知県一



創業記念日である6月10日社会貢献としてボラティアを実施

宮市)がISO14001の認証を取得しました。海外においては、昨年11月オランダの工場が認証を取得しています。1998年度中には、国内、海外全生産事業所にて、環境規格の認証取得を予定しています。

Q 先頭を切って、環境規格の認証を受けられた総務事業所の成果を具体的に紹介してほしいのですが…
A オムロン総務事業所では、廃棄物、紙のごみの削減を実現する、電力・ガス削減ができました。廃棄物29%削減、紙26%削減、電力7%削減、ガス19%削減。

以上の成果をあげることができました。

Q オムロンでは、ボラティア活動を通して社会貢献されていると…
A 当社では、「企業の公器性」実践の一形態として企業市民という考えを持ち、ボラティア活動を行い、社会貢献を目指しています。具体的には創業記念日である5月10日、世界各地のオムロングループ社員全員で、社会貢献活動を実施しています。活動内容は事業所によりさまざま

ですが、主として清掃、植樹、献金などが多いです。本社（京都市下京区）では、毎年京都駅周辺・鴨川・嵐山の清掃活動を行っています。これは1991年の創業記念日からスタートしたものです。

Q 前向きな社会貢献活動は、社員の方にもどう受け止められているのでしょうか。
A オムロンの社員は、市民として仕事以外の側面での「やりがい」や「生きがい」の充実をはかるライフスタイルを創造してほしいとの期待を込め、そのきっかけになればと始めました。社員一人ひとりが、社会貢献活動を通して学び、励まされ、自らの人生をいっそう充実させていくことを信じています。

●ISO14001
 企業は環境マネジメントシステムを構築する必要がある。この原則に基づいて、(1)環境方針の策定、(2)環境目標の設定、(3)環境管理計画の策定、(4)環境管理の実施、(5)環境監査の実施、(6)環境改善の推進、(7)環境報告書の作成、(8)環境マネジメントシステムの継続的改善が求められる。この原則に基づいて、(1)環境方針の策定、(2)環境目標の設定、(3)環境管理計画の策定、(4)環境管理の実施、(5)環境監査の実施、(6)環境改善の推進、(7)環境報告書の作成、(8)環境マネジメントシステムの継続的改善が求められる。

オムロン株式会社

本社所在地 〒600京都市下京区烏丸通
 七条下ル東塩小路町 735-5
 資本金 640億7878万円(96年3月期)
 事業内容 制御システム機器、電子決済システム、社会システム、車載電装機器、情報機器、健康医用機器などの研究開発、製造、販売
 本社の他、事業所、支店、営業所、物流センター、工場、研究所などの施設を全国、世界各地に有している



エコ・リーグ西日本ブロックで開かれたギャザリング(集い)に参加したメンバー



全国青年環境連盟 (エコ・リーグ) 西日本ブロック

Q 大学生を中心とした環境NGOと聞いているのですが、どんな理念で活動をしているのですか?

A 学生だけではなくのですが、29歳までの青年による環境活動団体です。地球環境破壊が進み、私たちの生命さえも危惧している今、社会を構成するすべての人々と連携し、地球への懸しみを込めて平等で平和な社会を築き、人間の幸福をかねるため自分たちができることから行動を起こそうとの理念を持って活動しています。僕たちは、押しついたり、反対したりしない。社会に向けて提案し、まずは行動することを大切にしています。社会的に責任を持たないという学生だからこそ、なにかができるのではないかと思っています。

Q 組織としては全国規模で、僕たちは西日本ブロックに属していますが、東日本、中日本もあるんですね。

A 1992年ブラジルで開かれた「地球サミット」では、青年たちによるNGOの交流が生まれまし。日本にもぜひ誕生させ、世界のNGOとネットワークさせよう、環境問題に取り組む青年たちとつれあいを深めようと準備を進め、1994年8月発足させました。

Q 活動としてどんなことをされてきたのですでしょうかまたその中でとくに印象に残ったことは?

A 発足準備の段階から2つの全国型プロジェクトをスタートさせました。ひとつは「きんばす」で、エコ・リーグ実行委員会にて、大学内での環境問題の実体やどうすれば環境に負荷を与えないでいられるかという課題に取り組んでみました。この流れの中で作ったのが「キャンパス・エコロジー・ハンドブック」、「ミタエィット学遊覧」、「ピュリサイクリング」のハンドブックです。これは学生協会で販売し何回か増刷もしたんです。大学内で回収システムを確立し、分別ごみ収集を奨励する基礎となりました。

Q 今年どんな活動を予定されていますか?

A あちこちの大学で実演のあった「ごみダイエット学遊覧」をこれから取り組もうとしていて、大学に広めたいですね。洗える皿を使おう、分別ごみ収集を徹底させようなどをアピールして大量のごみを排出していた学園祭をエコリサイクルにしていきたい。今年はCOP3が控えているので、それに向けてパワーを集約したい。昨春の



ごみダイエット学園祭で皿を洗う高校生

「西日本キャザリング」で立ちあげたCOPなどが他の団体と協力して「COOL EARTHエキンペーン」では、スピーカー・スツアや自転車でのキャザリングをしたと計画を練っています。活動を支える、精神面の充実も大切な点だと思います。人と人の真のつながりをエコ・リーグの中で築いていきたいですね。



香川阿土庄町自然と産業廃棄物の不法投棄について住民の説明を聞く連絡さん

全国青年環境連盟 (エコ・リーグ) 西日本ブロック JAPAN YOUTH ECOLOGY LEAGUE

事務局所在地

〒531 大阪市北区国分寺1-7-14

☎06-354-6634

全国青年環境連盟(エコ・リーグ)では、会員を募っている。団体加盟と個人会員があり、青年を中心とした環境に取り組む団体(メンバーが3名以上)、または積極的に関わりたい人のための個人会員がある。年齢が制限を超える人には、賛助会員として支援する道もある。

●お寄せいただいた人
全国青年環境連盟(エコ・リーグ)
96年度西日本ブロック代表
97年度西日本ブロック編集委員

南 隆昭
進藤真入

「ごみ」 ご意見番

こいけんばん

月間テーマをごみ問題にして、この2月、KBS京都から放送された「京都大好きラジオ」(全16回)に聴取者から多くの「ごみ減量宣言」が寄せられた。その中からいくつかの意見、創意工夫をご紹介します。

家庭では…

生 ごみを地肥にかなる、コンポスターを
活用しています。

数年前ごみ処理場の見学会に参加した時、熊
奥の中働いておられる方々の苦労を目の当た
りにし、ごみを減らすと決心しました。早
速、130ℓ用のコンポスターを2個購入し
ました。庭の日当たりのよい部分に埋めて生
ごみを入れると、4ヶ月位たってから土中の
微生物の力で生ごみが堆肥になります。私は
これを主人の家庭菜園に使っています。これ
で我が家の生ごみはほとんどなくなりまし
た。マンションのベランダでもできる電動式の
「EMポカ」などもあります。たとえ一人で
暮らさない限りやったほうがいい。ごみは
減っていると感じて頑張っています。

(2) 〇〇放送

ご みの分別を徹底、ごみがスーパード
に1つに。

ごみの分別を心がけています。まず、古紙
類・雑誌は業者引き取ってもらい、牛乳パ
ックは、再生の会へ持ち込みます。トレー
はスーパ、電池は役所の回収箱、空き缶・
空きびんは市の分別収集、燃えるごみは裏の
ガレージで反して花などの肥料にしていま
す。セーター類はほめて油のしをして、マ
ットなどに染み直しています。これで、回収
日にはスーパの袋1つぶんのごみしか出な
いようになりました。

(2) 10放送



古 簡で毛糸のタフシ作り。ごみ減量して
地球にもやさしい。

ごみ減量について、番組で紹介されたことは
ほとんどやっています。生ごみの堆肥容器、
空き缶・紙類・トレーのリサイクル、などな
ど、環境のことも考えねばと、今洗剤のいら
ない毛糸のタフシを古布で編んでいます。一
個75円位で出来るし、汚れもよく落ち地球に
もやさしい。友人にも配り、喜ばれています。

(2) 〇〇放送

オフィスでは…

オ フィスのごみにうんざり。分別に企業
も協力を。

オフィスでのごみほとんどコピー用紙です
が、生ごみ・空き缶・空きびんと一緒に出し
ています。私が分別しているのと、「何ごみあ
つてんの？」と、上司に言われます。そんな
ことしている間に仕事しろと言わればかり。
企業の協力があればもっとリサイクルできる
のに…。

(2) 4放送

紙 の無駄使いに気をくば。いい紙
はどんどん使え。

仕事上、コンピューターを使うので打ち出し
に失敗した用紙が大量に出ます。ごみの回収
日には3、4袋、多い時は5袋にもなります。
ラジオでごみ問題の話を聞いて、これではタ
マだと思えました。紙の無駄使いに気をくば
、また失敗した紙はメモにしようと思います。
今おもちゃで、広告やいらぬ紙を業社に作
りなおす。「紙コロン」というのがあります
が、あれもいいなあと思っています。

(2) 24放送

学校では…

学 校でも牛乳パックを集め、分別回収
しています。

学校で買ったのですが、1年間のごみの量は、
京都市だけで牛乳パック12杯分、約76万ト
ンだそうです。少しでもごみを減らそうと、

お店では…

買 い増強持参でスタンプ帳。30冊で
100円の割引券を。

私の近所のスーパーでは、自分で買い物袋を
持っていくとカードにスタンプを1個押して
くれます。それが30個たまると、100円の割引
券として使えます。お店側もこんな工夫をし
てくれたら、ごみは減るし、お客様は来るし
いいことなしたと思えます。(2) 〇〇放送



あなたのご意見をお寄せください

このページは、ごみに関する自由発言コーナーです。
どなたでもどんなご意見でも歓迎します。京都市ごみ
減量推進会議までお手紙をどうぞ。

〒604-71 京都市中京区寺町御池
京都市清揚局
ごみ減量リサイクル推進室内
☎ 075-222-4091

京都市ごみ減量推進会議 会報「ごみを減らそう」NO.1
1997年(平成9年)3月発行
編集発行 京都市ごみ減量推進会議